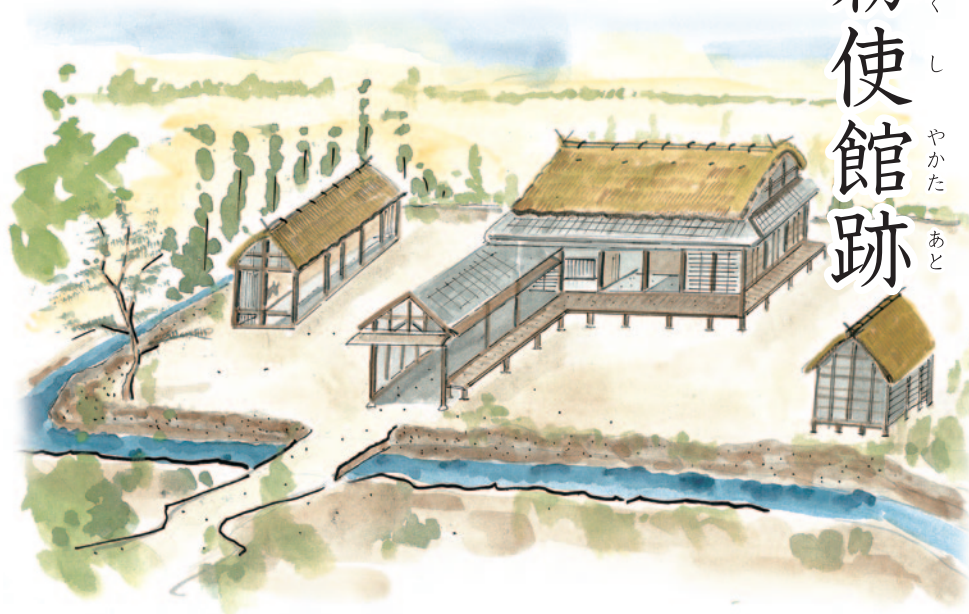


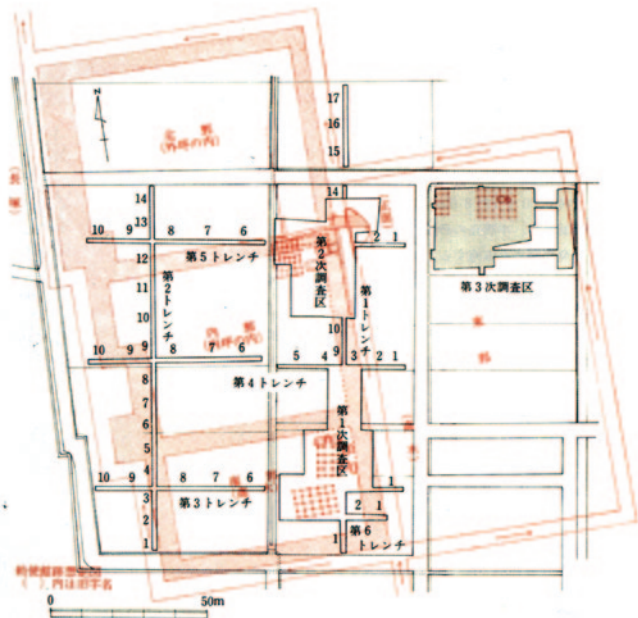
# 勅使館跡

ちよくし  
やかた  
あと



勅使館跡の様子（イメージ図）

## 勅使館跡模式図



勅使館跡出土中世陶器片



中世土師器皿



中国製青磁碗片

現在勅使小学校が建つ場所は、平安末期から南北朝時代にかけて、この地を管理していた豪族の居館跡です。

館跡は中心となる内郭と、南北東にそれぞれ郭を配した連郭式といわれる構造で、各郭は堀と土手で囲われていました。

内郭の一边は一〇八m四方で、これは古代の条里制の一町四方に相当します。条里制が勅使町周辺に設定されていたことは、大正時代に耕地整理される以前の測量図にも痕跡が確認できます。勅使館跡のような方形居館は、こうした条里の一町「一坪」から発展拡大したことが理解できる好例です。古代条里の一町四方が坪といわれていたことは、勅使館跡の内郭を「内坪の内」、外郭を「外坪の内」という字名で呼ばれていたことから判ります。

勅使小学校建設に伴う発掘調査で、大規模な堀跡や石組と多くの建物跡とともに、当時の人々の生活を偲ばせる陶磁器などが数多く出土しました。発掘されたのは館跡のごく一部で、大半は運動場などの地下に保存されています。



一部模式復元された勅使館跡

堀跡は幅四m近くあり、深さ約一・二mの大規模なもので、すべての郭の周囲に巡らされています。土手は確認されませんでした。耕地整理以前の測量図に、周囲の水田より高い部分が畑として痕跡を留めていたようです。

建物跡はすべて柱を地面に埋め込む掘立構造でした。大型の建物は、六×四間の大規模なもので、未調査の中心部には、さらに大きな建物があったと考えられます。

掘立建物の中には幅一間、長さ六間という細長い建物跡も出土しており、既と推定されます。他に貯蔵用の穴も数多く出土し、高級陶磁器等も多数見つかっています。

勅使という地名は、花山法皇の勅使が都から来たという伝説がありますが、実際には古代の皇室領を勅旨田といい、勅使町辺りにこの勅旨田があったことが平安後期の文献から判っています。ここから勅使の地名が付いたのでしよう。

勅使館は勅旨田を管理していた豪族の居館と推定されています。

発掘された遺構の一部は、重要性から校舎建設計画を変更し、地表に柱のあとを模式復元されています。